

## 卒後の臨床研修と診療所研修

台東区立台東病院 能登雄太郎

### はじめに

こんにちは、台東区立台東病院に勤務している、NDC 8期生の能登雄太郎です。私の勤務地である東京都台東区は、上野・浅草の二大繁華街がある観光の町として栄えています。

上野には、ガード下での立ち飲みスタイルの飲み屋が多く、気軽に立ち寄れる雰囲気と人の賑わいがあり、浅草は歴史や文化が色濃く残る町で浅草寺や雷門などの観光地や三社祭り、花火大会、酉の市など伝統的なお祭りもある場所です。

上野駅は東北からの玄関口と言われ、戦後の復興とともに上京してきた方、浅草は江戸時代からの下町として長らくお住まいの方も多くいらっしゃいます。

台東病院はその台東区の真ん中に位置し、一般病棟、回復期リハビリ病棟、療養病棟からなる病院と、介護老人保健施設を有するケアミッ

クス型の施設です。「『ずっとこのまちで暮らし続けたい』を応援します。」を理念にしています。

### 卒後自施設で1年間の臨床研修

2024年度は、自施設での臨床研修を行っています。NDCの臨床研修は自由度が高いのが特徴です。施設のニーズを踏まえて、研修生自身が主体的に研修を組み立てることができます。

しかし、私は全く計画性がなく、初めの数ヶ月は何をしていいか分からない状態で、指導医の業務や他のNDCの活動を見ているだけ、後追っているだけの研修時間を過ごしてしまいました。自分自身の成長を感じられず、また指導医には何をしたいのか伝えられずにご迷惑をかけていると申し訳なく思う日々が多かったです。

そのような中で当院の3人のNDC先輩方や理解のある看護部から多大な支援をいただい



台東病院 NDC  
左から榊奈美さん、細川信康さん、飯田芳恵さん、能登雄太郎（著者）

ます。地域のニーズやJADECOM、当院の理念に立ち返って、台東病院のNDCには何が必要か、今の自分には何が足りないのか、一緒に考えていただきながら、台東病院のNDCとして認められる存在になれるように努めています。

## 2週間の診療所研修

NDCの卒後臨床研修の重要なカリキュラムには、2週間の診療所研修があります。

私は2024年11月に真鶴町国民健康保険診療所での研修を行いました。私は診療所研修を通じ、病院とは異なる診療所ならではの、医師、看護師の役割を学びました。それは患者さんその人を理解し、顕在化していない問題も発見し、患者さん個々のゴールに対して私たちは何ができるか、患者さんと共に模索・実行していくことです。

私が今まで行っていた病院での臨床経験では、顕在化している症状から診断を行い、その病気に対してどのような治療を行っていくかを決めること、つまり患者の疾患にフォーカスして考えることが多かったと思います。

しかし、診療所研修の外来や訪問診療は、患者の全体像を理解し、個別のニーズに応じたケアを決定する場でした。患者中心の医療のフレームワークで考えると、その人のIllness(感情や期待すること)、その人にとっての健康に生きるということを理解すること。その人が今までどのような人生を送ったか、家族の思いや地域資源、周囲の環境、その人に関わる全てを考えること。つまり全人的に理解することが求められています。

また、診療所の医師や看護師は、理解するだけでなく、患者の話を傾聴し、共感を示すことで患者-医療者関係を強化していました。この関係が強化されることにより、患者は症状や悩



診療所研修

みを率直に話しやすくなり、その人の疾患、病いの発見につながっていました。

これは指導医が傾聴や共感するのみでなく、地域での活動に携わっていること、真鶴の文化、歴史を理解していること、つまり真鶴という地域の医師であったからだと感じました。

## 診療所研修を経て、 今後NDCとして担いたいこと

このような診療所研修を経て、NDCとして担っていきたい役割を改めて考える機会となりました。NDCの強みは、治療の決定方法についてのプロセスを理解した上で、患者さんの思いを引き出すこと、患者さんが気づいていない問題にスポットライトを当てることことにあります。

介護施設や診療所のスタッフは付き合いの長さもあり、利用者・患者の歴史やその人となりは理解していますが、それをどのようにケアにつなげていくか、健康問題の上流に存在している問題への介入に困っていると感じました。

今後NDCとして、介護・医療者とも協力して、その人の抱えている問題に気が付き、互いに納得した治療を決定する補助になればと感じました。